

* 学習指導案を作成するにあたって大切なこと *

○ 実態把握

子どもの実態を踏まえて、授業の目標、内容を考えていくこと。

○ 単元（題材）設定

子どもの実態や興味関心等から考えていくこと。

単元（題材）の中で、本時をどのように位置づけているのか、他の単元や教科等との関連はどのようなになっているのかを個別の指導計画を踏まえて考えること。

○ 本時のねらいについて

本時のねらいには、この単元（題材）のねらいから「子どもに付けたい力」、「めざす姿」を具体的に考えること。

○ 学習活動・内容

授業では子どもが「持っている力を使いたくなる」ような学習活動を工夫していくこと。

子どもが活動する様子を予想し、支援が必要な場合、どのような手立てがあるか、具体的に考えていくこと。

○ 評価

授業の中のどこで評価をするか、どんな視点でするか。

ねらいが明確でないと、評価も曖昧になること。

本当にその子の実態に合った学習活動だったのか、支援は適切だったのかを考えること。

例

センター学級 生活単元学習 学習指導案

日 時：令和〇年〇月〇日（ ）〇校時

場 所：センター学級

指導者：島根せんた

1 単元名（題材名）「〇〇△△□□」

○子どもにとっても分かりやすく魅力的な単元名だといいですね。
○単元の計画にあたっては、実際の生活と関連したものが基本です。
例：「野菜を育てよう」「電車に乗ってアクアスに行こう！」など

2 単元（題材）について

○児童（生徒）観

○最初に児童観（生徒観）がきます。子どもの実態をふまえて、どのような授業を組むのか考えるからです。
○子どもが複数いる場合は、学級全体の実態も併せて書きます。
○個別の指導計画を踏まえて考えてみましょう。
○生活単元学習は実際の生活から発展し、子どもの知的障がいの状態や生活年齢等を踏まえ、個人差の大きい集団にも合う内容がよいです。

○教材観

○子どもの実態を踏まえて、本単元（題材）の有効性や意味を考えたものが教材観です。
○実生活との関連も記述します。

○指導観

○教材教具、学習形態、学習過程、子どもの実態に応じてねらいを達成するための支援などについて、指導者の意図的な活動の記述をします。
○単元全体の指導に併せ、本時の指導の記述をします。

3 単元（題材）の目標

- (例)・○○○○、◇◇◇◇～～～する。【知識及び技能】
 ・□□□□、△△△△～～～する。【思考力，判断力，表現力等】

○子どもの実態に応じて、つきたい力やめざす姿について書きます。
 ○「～する」「～見通しを持つ」「～身につける」など、子どものめざす姿を示す文末表現にします。
 ○「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」などの内容の視点から考えるとよいです。ただし、すべての観点を踏まえた目標を記入すると言うことではありません。（上記（例）参考）
 ○特別支援学校学習指導要領を参考にしてください。
 ○「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点の他に、児童生徒の実態に応じ、児童生徒に身につけさせたいことに関して学校で検討された観点（例えば「人と関わる力」「課題解決力」等）を設ける場合もあります。

○記入の方法として2つの例があります。（【例1】【例2】）
 ○3単元（題材）の目標に挙げた3観点を基に記入する場合【例1】と学校で検討された観点を記入する場合【例2】です。

4 評価規準

【例1】（3観点のうち、「知識及び技能」と「思考力，判断力，表現力等」が目標に挙げられた場合）

知識及び技能	思考力，判断力，表現力等
(例) 野菜作りに必要な道具の扱いをしている。	(例) 見通しをもちながら活動に取り組んでいる。

○単元目標が観点別に整理して記述された場合、評価規準は、単元目標とほぼ同じ表記になることがあります。
「授業づくりハンドブック」～学習指導案と学習評価の考え方について～
 平成30年3月岡山県特別支援学校長会 岡山県教育庁特別支援教育課より参考
 ○「単元の目標」と対応させ、各観点に対して何に着目して評価するかという評価する内容を具体的に書きます。

【例2】

人と関わる力	課題解決力
<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 10px; border-radius: 15px; margin-top: 10px;"> <p>○「～しようとしている」「～している」など子どもの状態を示す文末表現にします。 ○例えば【例1】（知識及び技能）（思考力，判断力，表現力等） 「教師の支援を受けながら野菜作りに取り組もうとする。 （主体的に学習に取り組む態度）」 など。</p> </div>	

5 単元計画（全○時間）

（記入例）

- 「 」・・・2時間
- 「 」・・・4時間（本時2／4）
- 「 」・・・2時間

○生活単元学習など各教科等を合わせた指導の場合、少しゆったりと単元を計画するとよいと思います。そうすることが、学習の拡がりや発展につながります。色々な経験ができるように活動を考えます。特別支援学校学習指導要領や特別支援教育ハンドブック（島根県教育委員会）を参考にするのもよいと思います。

○表で示すこともできます。

（例）

次	時	主な学習活動
一	1	
	2	
二	1	
	2	

6 本単元（題材）における児童（生徒）の実態及び個別目標

児童(生徒)名	児童（生徒）の実態	本単元（題材）の個別目標
A		
B		

- 本単元に関係することを中心に子どもの実態を書きます。（箇条書きでよい）
- 児童（生徒）の実態欄には、苦手なことばかりでなく、本人の得意なことや頑張っていることも記入します。
- 個別目標には、単元のねらいから、「この子ども」に付けたい力、めざす姿を具体的に挙げます。
- 学級に子どもが複数いる場合には、人数分考えます。

7 本時の学習

（1）全体目標（ねらい）

（例）・のこぎりとかなづちを使って、手順表を見たり教師がするのを見たりして看板をつくることができる。【思考力，判断力，表現力等】

（2）個別目標

児童(生徒)名	個別目標
A	
B	

- 本時に関わる（1）全体目標と（2）個別目標を書きます。
- 特に、本時でねらいたいことにしぼって書きます。
- 文末は「～する」「～できる」など子どもの立場で書きます。
- 本時において、個々の子どもが取り組むことをできるだけ具体的に書きます。「6本単元（題材）の個別目標」との整合性も考えます。

(3) 展開 (2/4)

学習活動	教師の支援 (○) と評価 (☆)		準備物など
	A	B	
	<p>○子どもの予想される反応に対する支援 (○) を記述します。 ○複数の子どもに共通する活動を書く場合は、複数の子どもにまたがるように枠をつなげて一つにして書いたり</p>		
	<p>別々の活動をする場合は枠を分けたりします。</p>		
<p>～ 省 略 ～</p>			

(4) 評価基準

- 評価基準は本時の個別目標に対して、個々の子どもがどのようなことをどの程度できれば目標達成といえるか分かるように書きます。
- 文末は「～している」などです。

- 評価基準の書き方にはいろいろな考え方があります。こどもの実態、学校で検討されたもの、学級内の子ども的人数などに応じて適切な方法で記入してください。
- ここでは【例1】～【例3】を紹介します。

【例1：十分満足できる状態であると判断される姿のみを書く】

(本時の目標が「思考力, 判断力, 表現力等」の場合の記入例)

児童(生徒)名	思考力, 判断力, 表現力等
A	(人と関わる力の目標に対して「十分満足できる」状態の姿のみを文章表記)
B	○個別の目標は、その単元で付けたい力を十分に付けられた姿を想定して設定しています。その目標に対応して記述する「評価基準」となるので、「十分満足できる」状態であると判断される姿のみを書くことも多いと考えられます。

「授業づくりハンドブック」～学習指導案と学習評価の考え方について～
平成30年3月岡山県特別支援学校長会 岡山県教育庁特別支援教育課より参考

【例2：評価の観点を具体的に記述する】

	十分満足できる姿	概ね満足できる姿	努力を要する状況の手立て
A			
B			

○子どもの実態は異なるため、努力を要する状況の際の手立ても一人一人異なります。こうしたらできるという手立てを書きます。(概ね満足できる姿から十分満足できる姿にする手立ても☆)

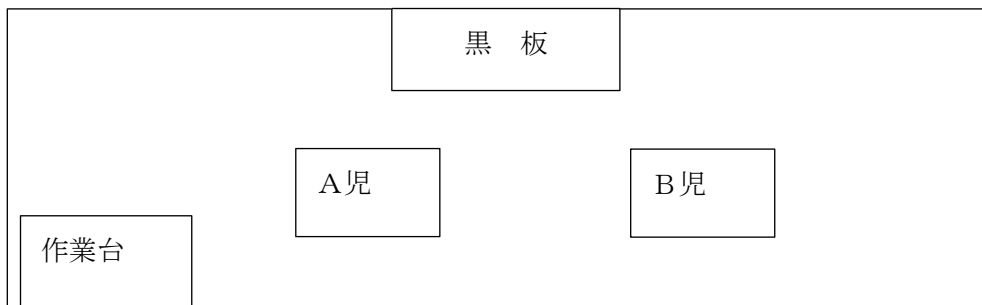
○努力を要する状態であった場合、実態把握はできていたのか。本当にこの子どもに合ったねらいだったのか。支援はどのようにしたのか。特に慎重に振り返る必要があります。

【例3：記入しない】

例えば学級の人数が少なく、7本時の学習の(3)展開の中に、詳しい評価方法や手立てが記入してある場合は省略可能と考えられます。

以下(5)～(7)は必要に応じて記入します。

(5) 配置図



(6) 板書計画

(7) 研究の視点

など

～その他～

- 略案の場合にもあるとよい項目
- 1 単元名 (題材名)
 - 3 単元 (題材) の目標
 - 7 本時の学習 (1) ～ (4)

○この指導案様式例は、基本的に学習指導要領 (平成 29 年) の中での評価の観点として、3 観点で整理しています。(※ 移行措置期間は現行学習指導要領の観点)